

列1	②	化学	年齢	勤務校	クラス数	大学進学率	探究活動の実施体制について感じていること
1	②	化学	① 29歳以下	① 普通科;	③ 21～15学級	⑥ 19%以下	生徒の実態に合っていないので実施できない
2	①	物理	① 29歳以下	① 普通科;	⑤ 6学級以下	⑥ 19%以下	少人数の教員が指導計画に関わっており、その改善が求められる。
3	②	化学	① 29歳以下	③ 総合学科;	④ 14～7学級	③ 79～60%	授業時間が不足、放課後などの指導となってしまう。
4	③	生物	① 29歳以下	① 普通科; ② 理数科;	① 30学級以上	① 90%以上	教員ごとにモチベーションの高さが異なる、探究に不慣れな教員が見通しを持たないまま一人で一年の計画を立案しなければならない時がある、
5	②	化学	① 29歳以下	① 普通科;	② 29～22学級	① 90%以上	実施体制が完全に組織化されておらず、統制が取れていない。
6	②	化学	① 29歳以下	① 普通科;	④ 14～7学級	④ 59～40%	探究活動の実施が不十分である原因として、学校体制が整っていないというものですが、一番は自身のスキル不足であると痛感しております。こういったアンケートを実施していただけることで自身の課題がより明確になると感じました。ありがとうございます。
7	⑤	その他	① 29歳以下	① 普通科;	③ 21～15学級	① 90%以上	一部の教員の負担が大きいに感じる。学年で違う内容などを実施していることもあり、フォーマット化されていない。これにより、どの教員も対応できる体制が整わない。
8	②	化学	① 29歳以下	① 普通科;	⑤ 6学級以下	⑥ 19%以下	自分も含め、探究活動の指導の方法や進め方自体が分からない教員が多い。
9	②	化学	① 29歳以下	③ 総合学科;	③ 21～15学級	③ 79～60%	配置される教員が少なく十分な指導を生徒にすることができていない。
10	②	化学	① 29歳以下	① 普通科;	③ 21～15学級	③ 79～60%	探求活動を行うための教材研究をする時間がない
11	②	化学	① 29歳以下	⑧ その他;	⑤ 6学級以下	⑥ 19%以下	本校の生徒のレベルではそもそも生徒の実態に合わせて実施すること自体が困難である
12	②	化学	① 29歳以下	① 普通科;	③ 21～15学級	③ 79～60%	教員の人数が足りない他、授業時数等も足りない。評価にも時間を要する物が多く、適切な評価までできない。
13	①	物理	② 30～39歳	① 普通科; ② 理数科;	③ 21～15学級	① 90%以上	理科と数学の教員に負担が集中している点。授業時間以外での拘束が多い。
14	①	物理	② 30～39歳	① 普通科; ② 理数科; ⑧ その他;	③ 21～15学級	① 90%以上	SSHに係るテーマ検討会や中間検討会等の日程が優先され、課題の設定や実験に十分な時間が取れない。理科・数学(の一部)・情報の職員のみが過剰な負担を強いられている。新課程になって、大学受験で必要とする科目が多すぎて1、2年で探究活動に時間を割けない。
15	②	化学	② 30～39歳	① 普通科;	② 29～22学級	④ 59～40%	「教科書の内容を教える」ことより教材研究が必要なのに、「時間・業務量」に余裕がない。本当に重要だと考えているなら環境を整えて欲しい。
16	④	地学	② 30～39歳	① 普通科;	② 29～22学級	④ 59～40%	新教育課程の観点別評価やGIGAスクール構想による環境の変化に対応することに追われているため、探究活動について職員間で内容の検討や振り返りの時間が十分に取られていない。
17	③	生物	② 30～39歳	① 普通科;	③ 21～15学級	④ 59～40%	日々の校務に追われているので、探究の時間当日に準備された要項をさっと読んで実施している。指導者の温度差も大きい。
18	②	化学	② 30～39歳	⑤ 商業科;	③ 21～15学級	⑤ 39～20%	商業高校では、商業科目、商業科職員中心に探求活動も進んでいくため、理科では探求活動の状況はわかりません。
19	①	物理	② 30～39歳	① 普通科;	③ 21～15学級	③ 79～60%	探究を教科横断で見た際に、教科間の価値観や考え方の違いが大きく出ることがある。それが評価の際に出るとさらに難しく感じる。
20	③	生物	② 30～39歳	① 普通科;	③ 21～15学級	① 90%以上	本校は、探究活動を全校体制で行っているため、探究活動の授業を通して自分事として捉える先生を増やし、専門の授業に探究活動の視点を取り入れてくれたら幸いです。
21	②	化学	② 30～39歳	① 普通科;	① 30学級以上	① 90%以上	36で事例学べる機会があればと書きましたが、そもそも他の業務に追われ、探究の指導スキル向上のための時間が確保できないのが現状です。人員増と、業務の削減を切に願います。
22	②	化学	② 30～39歳	① 普通科;	② 29～22学級	② 89～80%	教員間の温度差と、探究コーディネーターにかかる負担感がネックであると感じます
23	②	化学	② 30～39歳	③ 総合学科;	③ 21～15学級	② 89～80%	活動時間が足りない。知識や詰め込みを中心とした大学入試制度がある。教員数が不足している。

列1	②	化学	年齢	勤務校	クラス数	大学進学率	探究活動の実施体制について感じていること	
24	③	生物	②	30～39歳	① 普通科; ⑧ その他;	④ 14～7学級	③ 79～60%	総合的な探究活動においても、もともと学校が設定している枠組みがあり、自由度が小さい。我が校では地域社会に関する活動が設定されてあるため、理数に関する探究活動をすることができず、教員及び生徒の進路とのミスマッチが起きているという現状がある。
25	③	生物	②	30～39歳	① 普通科;	⑤ 6学級以下	③ 79～60%	地元自治体からの支援もあり、探究活動の実施体制は整っていると感じる
26	②	化学	②	30～39歳	① 普通科;	④ 14～7学級	⑥ 19%以下	上位校では授業時数が足りず、下位校では探求のための基礎学力や考える力、安全に実施できる能力が足りない。
27	③	生物	②	30～39歳	① 普通科; ⑧ その他;	③ 21～15学級	③ 79～60%	探究活動を取り組む姿勢が、学校として不十分。また、生徒の学力や知識力、学習に対する意欲が、探究活動をできる状況ではない。
28	①	物理	②	30～39歳	① 普通科; ⑦ 産業科; ⑧ その他;	⑤ 6学級以下	⑥ 19%以下	時間の確保に課題がある。授業の内容が生徒発信となると年間での見通しが組めないため、予算がつきにくい。
29	②	化学	②	30～39歳	① 普通科; ② 理数科;	③ 21～15学級	① 90%以上	探究活動を行うことは定着している。
30	③	生物	②	30～39歳	① 普通科;	③ 21～15学級	② 89～80%	個々の教員が年ごとに代わる代わる担当するため統一性がない
31	①	物理	②	30～39歳	① 普通科;	④ 14～7学級	③ 79～60%	生徒の実態に合っていないのに、無理にやらせる必要はないと感じる
32	②	化学	②	30～39歳	① 普通科;	④ 14～7学級	⑥ 19%以下	生徒の実態に合っていない。(定時制のため)
33	③	生物	②	30～39歳	① 普通科;	④ 14～7学級	③ 79～60%	中心となる教員に負担が偏りがち
34	①	物理	②	30～39歳	① 普通科; ⑧ その他;	④ 14～7学級	⑤ 39～20%	教員、授業時数ともに余裕がないため、実施できない状況があります。
35	①	物理	②	30～39歳	① 普通科; ⑧ その他;	④ 14～7学級	⑤ 39～20%	探究活動は、教職員全体で実施しないと効果がでない。探究活動の授業は分掌業務として位置付けた方がいい(学年、プロジェクトチームではなく、探究部など)。
36	②	化学	②	30～39歳	① 普通科;	② 29～22学級	② 89～80%	探究活動そのものは実施できるならば、良い活動だと考える。ところが、高校だけの問題ではなく、小学校・中学校から探究的な活動を統一的に実施していかないと、高校入学時に個人の活動に対する意欲や技術に大きな差が出てきてしまう。小学校・中学校が取り組んでいないとは思わないが、業務過多になっている昨今の教育現場で、探究活動という新たな業務を取り入れよというのならば、別の業務を減らさないと不可能に近い。
37	③	生物	②	30～39歳	① 普通科; ② 理数科;	② 29～22学級	① 90%以上	本校は、各分野での取り組みを共有し、教員同士で打ち合わせを実施しています。これらの体制があっても取りまとめ役はスキルが要ります。このスキルの育成が困難です。
38	②	化学	②	30～39歳	① 普通科;	③ 21～15学級	⑥ 19%以下	探求活動がそもそも生徒の実態に合っていない。
39	②	化学	③	40～49歳	① 普通科; ⑤ 商業科;	③ 21～15学級	⑤ 39～20%	教員自身が分かっていないことも多いが、生徒の実態を考えると、積極的に探究活動が行えないという理由も分かる。
40	②	化学	③	40～49歳	① 普通科;	⑤ 6学級以下	⑤ 39～20%	授業時数として確保することは難しい。ヒトモノカネがないまま、「指導要領で定められたから」「今の社会に必要なだから」と導入を迫られても、実現は難しい。
41	②	化学	③	40～49歳	⑤ 商業科;	② 29～22学級	④ 59～40%	基本的には応援してもらえないものだと思います。
42	②	化学	③	40～49歳	① 普通科;	② 29～22学級	① 90%以上	探究のテーマが多岐にわたり、専門的な指導などは難しいと感じる。ガイドライン的なことを教職員で統一して指導できるように、校内研修などをもっと充実させてほしい。
43	②	化学	③	40～49歳	① 普通科;	③ 21～15学級	⑤ 39～20%	本校の生徒の学力とかけ離れている。
44	④	地学	③	40～49歳	⑧ その他;	① 30学級以上	⑥ 19%以下	新学習指導要領への移行に手が取られ、ゆとりがない。
45	②	化学	③	40～49歳	⑧ その他;	② 29～22学級	③ 79～60%	時間数が圧倒的に足りない
46	②	化学	③	40～49歳	① 普通科; ② 理数科; ⑧ その他;	① 30学級以上	① 90%以上	担当職員が決めたことを否定するばかりで、代案を出す職員がいない。

列1	②	化学	年齢	勤務校	クラス数	大学進学率	探究活動の実施体制について感じていること	
47	①	物理	③	40～49歳	① 普通科;	① 30学級以上	① 90%以上	教師の人事評価にいれない限り、探究の時間に内職したり、放置したり、通常の授業では、やらないはずのことを平気で行う教師がいる。探究活動の意義や大切さを何度も聞いているはずであるが、残念ながら、どこの学校でも、一定数そのような方がいる。そこに、推進する先生が苦勞するのは、おかしいと思うので、そこは、人事評価に入れないと収集がつかないと、感じている。
48	①	物理	③	40～49歳	① 普通科; ② 理数科; ⑧ その他;	② 29～22学級	① 90%以上	他のグループと揃えてくださいと言われることが多く、ペースが乱される。生徒の様子を見て即時やりたいことが生まれたとしても、みんなでやる事が決まっていた場合、みんなでやる事を、優先せざるを得ない。
49	②	化学	③	40～49歳	① 普通科; ② 理数科;	② 29～22学級	① 90%以上	人事異動による人の入れ替えや校内人事による担当者の変更が多くあると、今までの実施内容が1からの説明となり、引き継がれない。
50	②	化学	③	40～49歳	① 普通科;	③ 21～15学級	① 90%以上	日々の業務で手一杯です。新たに探究を行い生徒一人一人の面倒を見るのは今の体制では不可能だと思います。
51	②	化学	③	40～49歳	① 普通科;	③ 21～15学級	③ 79～60%	理科とは全く関係なく、「女性学」という形で、本校は探究に取り組んでいます。
52	②	化学	③	40～49歳	① 普通科;	① 30学級以上	⑥ 19%以下	担当教員まかせであること。
53	②	化学	③	40～49歳	⑤ 商業科;	③ 21～15学級	⑤ 39～20%	探究活動についての知識の不足
54	③	生物	③	40～49歳	① 普通科;	③ 21～15学級	① 90%以上	多くの手法がある分、そこにかかる人数と時間が必要となり、最終的に不十分な状態になっている。授業内容が増えている分、今まで以上に授業や教材研究にかかる時間が多くなっている。大学受験がある以上、学習内容をすべて終えることに専念してしまうため、探究活動が二の次になってしまっている。
55	①	物理	③	40～49歳	① 普通科;	③ 21～15学級	④ 59～40%	探究の幅が広く、課題設定が難しいうえ、教科での実施を行うための人員や設備も不足している。
56	①	物理	③	40～49歳	① 普通科;	③ 21～15学級	① 90%以上	探究を通して生徒が身につける資質能力を同じ評価規準で捉え、探究のサイクルを同じレベルで追うことができる能力を持った教員集団ができるとよい。
57	③	生物	③	40～49歳	① 普通科;	⑤ 6学級以下	① 90%以上	学校全体でやっていく体制と外部との連携が必要である。
58	②	化学	③	40～49歳	① 普通科;	③ 21～15学級	② 89～80%	ファシリテーター的な教員がおらず、教員研修が進んでいない
59	②	化学	③	40～49歳	② 理数科; ① 普通科;	② 29～22学級	① 90%以上	SSH科目での実施は問題ないのですが、理科の授業での実施についてはまだハードルが高いと感じている教員も少なくないと思います。
60	②	化学	③	40～49歳	① 普通科; ② 理数科;	③ 21～15学級	① 90%以上	探究活動とSSH事業の相性は大変良いと思います。
61	②	化学	③	40～49歳	① 普通科; ⑧ その他;	② 29～22学級	① 90%以上	どこまで何をするのかがわからない。
62	③	生物	③	40～49歳	④ 工業科;	③ 21～15学級	⑥ 19%以下	教員の負担が大きすぎる。特定の教員に仕事が集中する。
63	⑤	その他	③	40～49歳	① 普通科;	⑤ 6学級以下	⑥ 19%以下	そもそも、探求の必要性を生徒が感じていないことがある
64	③	生物	③	40～49歳	① 普通科;	③ 21～15学級	② 89～80%	まずもって、現状を知らない人達が決めた制度、であるということ。「理想」を持つことは大切ですが、あくまでも「現実」があつての「理想」でないと、ただの「妄想」です。絵に描いた餅では話にならないのですよ。もっと、小学校からを含め、「受験対策」や「やり方」ではなく、物の見方や、本質を教えていく体制をちゃんと未来の日本を考えて整えていかない限り、どんな体制を取ろうが、実効性のない、絵に描いた餅のための体制になり、無駄金を使うことになる。
65	③	生物	③	40～49歳	① 普通科;	③ 21～15学級	① 90%以上	教員も生徒も仕事過多になりがちである。効率のよい指導法や授業法の開発や、指導負担と指導効果をバランスした探究活動のレベル設定が必要である。
66	③	生物	③	40～49歳	② 理数科; ① 普通科;	③ 21～15学級	① 90%以上	研究費と設備が不足
67	②	化学	③	40～49歳	① 普通科;	② 29～22学級	① 90%以上	負担の偏りをなくせば劇的に改善されると思います。
68	③	生物	③	40～49歳	① 普通科;	③ 21～15学級	③ 79～60%	担当者同士の事前・事後の打ち合わせや話し合いの場の設定
69	①	物理	③	40～49歳	① 普通科;	② 29～22学級	① 90%以上	実体験に基づく探究活動が少ないと感じている

列1	②	化学	年齢	勤務校	クラス数	大学進学率	探究活動の実施体制について感じていること
70	①	物理	③ 40～49歳	① 普通科;	① 30学級以上	① 90%以上	壮大な目的と内容の質が不一致
71	①	物理	③ 40～49歳	① 普通科;	① 30学級以上	① 90%以上	副担任が1人でクラス全体を受け持つが、スキル、経験の少ない教員が担当することも多く、大変。
72	②	化学	③ 40～49歳	① 普通科;	① 30学級以上	① 90%以上	探求は基礎学力の上に成り立つもので、高校では早いと思います。もちろんその学校の学力レベルにもよるとは思います。
73	④	地学	③ 40～49歳	① 普通科;	⑤ 6学級以下	③ 79～60%	探究活動がまだ定着しきれていない
74	②	化学	③ 40～49歳	① 普通科;	③ 21～15学級	⑤ 39～20%	担当者まかせ
75	②	化学	③ 40～49歳	① 普通科; ⑦ 産業科;	④ 14～7学級	⑤ 39～20%	体制は出来つつあると思うが、教員一人一人が探究について準備する時間が十分に取れていない。
76	③	生物	③ 40～49歳	① 普通科;	⑤ 6学級以下	⑥ 19%以下	肢体不自由の特別支援学校であるため、授業進度が遅い。そのため、探究活動をじっくり取り組むことが難しい。
77	①	物理	③ 40～49歳	① 普通科;	③ 21～15学級	① 90%以上	学年間でバラバラ。学校の体制としては未完成。
78	②	化学	③ 40～49歳	① 普通科; ④ 工業科;	④ 14～7学級	⑤ 39～20%	見かけ上は全教員で指導に当たっているが、温度差は大きい
79	②	化学	③ 40～49歳	① 普通科;	③ 21～15学級	④ 59～40%	探究活動のプロセスを組織的に構築する体制が必要
80	①	物理	③ 40～49歳	① 普通科;	② 29～22学級	① 90%以上	教員の負担を軽くし、外部に委託するがよい。委託するための予算が欲しい。
81	③	生物	③ 40～49歳	① 普通科; ② 理数科;	② 29～22学級	① 90%以上	レポート添削の負担が非常に大きい。このためだけの人員が必要だと思います。新しいことをするには、それなりのお金をかけるべきだと思います。
82	③	生物	③ 40～49歳	② 理数科;	④ 14～7学級	① 90%以上	管理機関と管理職のリーダーシップがあれば進むが、そうでないと難しい。
83	②	化学	③ 40～49歳	④ 工業科;	③ 21～15学級	⑥ 19%以下	工業高校であり、理科の教員および教育課程上の時間が少ない。したがって、工業科の実習や課題研究で探究活動を行う方が現実的である。
84	①	物理	③ 40～49歳	① 普通科; ② 理数科; ⑤ 商業科;	③ 21～15学級	① 90%以上	全教員が取り組むだけの時間的余裕の確保が必要
85	①	物理	③ 40～49歳	① 普通科; ② 理数科;	② 29～22学級	① 90%以上	「全校体制で探究を行う」ということに関しては時間をかければできることだが、「生徒の探究の質を向上させる」ためには、教員ひとりひとりが探究活動を「指導しよう」と思えるような意識改革が必要であるし、探究授業を準備するための十分な教材研究の時間が必要であると思う。働き方改革をある程度解決しない限り実施体制の問題は解決しづらいのではないと思う。
86	③	生物	③ 40～49歳	① 普通科; ② 理数科;	③ 21～15学級	④ 59～40%	学校をあげて計画的に行っているが、教員数も足りなければ施設設備も不十分。やれというならば、全国同じようにやれる体制を国も責任を持って整えてほしい。
87	③	生物	③ 40～49歳	① 普通科; ⑧ その他;	③ 21～15学級	② 89～80%	全校体制で行うべきだと思うが、そうするには課題が多すぎる。
88	②	化学	③ 40～49歳	① 普通科; ⑤ 商業科; ④ 工業科;	④ 14～7学級	③ 79～60%	赴任1年目でまだ把握しきれていません。
89	②	化学	③ 40～49歳	① 普通科;	② 29～22学級	② 89～80%	実験機材の不足
90	③	生物	④ 50～59歳	① 普通科;	③ 21～15学級	② 89～80%	設問を考えるのはとても大変なことだと思います。ただ、探究活動に必要なのは設備の充実やICT環境ではなく、人的資源の充実ではないでしょうか。
91	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科;	① 30学級以上	① 90%以上	教科の探究活動と総合的な探究の時間の探究活動とは内容が多く異なる。
92	①	物理	④ 50～59歳	① 普通科;	④ 14～7学級	⑤ 39～20%	生徒の実態、教員のマンパワー、ICT環境、教育委員会のリーダーシップ（設備整備と管理）、通信機器の管理を専門で行う教員の不足が深刻です。
93	①	物理	④ 50～59歳	① 普通科;	④ 14～7学級	⑥ 19%以下	探求内容が生徒の興味関心に基づいて精選されているのか？それとも統治側の要求に基づいているのか？もしも、前者であれば、有意義な活動が期待される。
94	①	物理	④ 50～59歳	⑧ その他;	③ 21～15学級	⑥ 19%以下	授業が週に1回しかないので取り組むのは厳しいと感じている。
95	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科;	③ 21～15学級	③ 79～60%	文科省指定事業「創造的教育方法実践プログラム」に関連した探究活動の中で、2学年団の教員負担が大きい

列1	②	化学	年齢	勤務校	クラス数	大学進学率	探究活動の実施体制について感じていること
96	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科; ⑧ その他;	③ 21～15学級	③ 79～60%	教員間の熱量の差はあると思います。熱心な教員に指導される生徒は様々な経験ができますが、なるべく生徒が受ける指導に差が生じないような指導体制が必要だと感じます。
97	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科;	⑤ 6学級以下	⑥ 19%以下	準備が追いつかない
98	④	地学	④ 50～59歳	① 普通科;	③ 21～15学級	① 90%以上	教員間でやる気に温度差がある。指導方法が分からず、バラバラである。
99	①	物理	④ 50～59歳	① 普通科;	③ 21～15学級	⑤ 39～20%	事前準備を十分に行うこと
100	③	生物	④ 50～59歳	④ 工業科;	③ 21～15学級	⑥ 19%以下	生徒の能力が低いため、知識や計算ができない者が多く、課題以前の問題である。
101	③	生物	④ 50～59歳	① 普通科;	② 29～22学級	① 90%以上	時間と人員の不足
102	③	生物	④ 50～59歳	① 普通科;	④ 14～7学級	② 89～80%	基本的には、中学生と高校1年生しかやらないので、少し物足りない。
103	③	生物	④ 50～59歳	① 普通科;	③ 21～15学級	① 90%以上	教員の多忙化の解消が急務である。
104	①	物理	④ 50～59歳	① 普通科;	③ 21～15学級	① 90%以上	とにかく負担が大きい。
105	③	生物	④ 50～59歳	① 普通科;	④ 14～7学級	⑥ 19%以下	教員全体に「新しいことは難しい」という意識がある
106	③	生物	④ 50～59歳	① 普通科; ② 理数科;	③ 21～15学級	③ 79～60%	今年度赴任したばかりで問題把握と改善の最中ですので、コメントは控えさせていただきます。
107	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科;	③ 21～15学級	④ 59～40%	現時点では不確定要素が多い。今後、軌道に乗るように取り組んでいるところである。
108	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科; ⑤ 商業科;	④ 14～7学級	⑥ 19%以下	探究活動のテキストを購入させているが、どのように活用すべきか校内で議論していかないと、指導に一貫性を欠いてしまう。活用法を確立することで、指導を継続的に行い、優れた探究活動が出てくれば、その事例について生徒、教員が共有できれば活性化できるように思う。
109	③	生物	④ 50～59歳	① 普通科;	③ 21～15学級	⑤ 39～20%	特にありません
110	①	物理	④ 50～59歳	① 普通科;	① 30学級以上	⑤ 39～20%	「コミュニケーションを取りたくない」という生徒が多いので、他校で展開しているような活動はふさわしくない。教員が個人的に取り組めば良いと思う。
111	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科;	⑤ 6学級以下	④ 59～40%	生徒が主体的に取り組む仕掛けが大事である
112	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科;	① 30学級以上	② 89～80%	普通の教科指導が盛りだくさんなか、何を優先するのか見失っている。
113	③	生物	④ 50～59歳	③ 総合学科;	① 30学級以上	① 90%以上	読み替えも多く探求の時間が少ない。
114	①	物理	④ 50～59歳	① 普通科;	① 30学級以上	③ 79～60%	手探りですが少しづつ発展させています
115	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科; ② 理数科; ⑧ その他;	② 29～22学級	① 90%以上	授業時間以外でも対応が求められることが多い。
116	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科;	③ 21～15学級	④ 59～40%	基礎学力を身に着けてからの探求活動である。ごく優秀な高校生には効果がある。が、昔のように大学に行ってからでよい。
117	③	生物	④ 50～59歳	① 普通科;	④ 14～7学級	③ 79～60%	探究活動に関わることのできる教員の絶対数の不足、専門教科以外の研究課題に対するの負担が大きい
118	⑤	その他	④ 50～59歳	① 普通科; ⑧ その他;	③ 21～15学級	① 90%以上	探究活動をする時間に余裕がない。
119	③	生物	④ 50～59歳	④ 工業科;	④ 14～7学級	⑥ 19%以下	普通科や理数科でも、工業・農業・水産などの理系実業高校なみの人材・設備・予算を用意できないものか。
120	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科; ② 理数科; ⑧ その他;	③ 21～15学級	① 90%以上	文理探究科の設置にともない、従来理・数の教員が担当していた探究活動の指導を全教科の先生方で取り組まないといけなくなる。その取り組みへの温度差が心配である。
121	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科;	④ 14～7学級	⑥ 19%以下	専門教科が重要である。
122	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科;	④ 14～7学級	⑥ 19%以下	スキルに差がある。
123	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科;	③ 21～15学級	⑤ 39～20%	困難校や中堅校の生徒は理数科目を苦手になっている生徒が多い。
124	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科;	② 29～22学級	① 90%以上	学校全体で取り組むようになっているが、教員個人のスキルアップ体制の不足がある。
125	①	物理	④ 50～59歳	③ 総合学科;	③ 21～15学級	④ 59～40%	生徒の能力や知識量によって、一人の教員で担当できる生徒数が大きく変わってくる。学力が高くない学校で、一人の教員に限られた時間の中で何人（グループ）の生徒を指導できるか考えてほしい。

列1	②	化学	年齢	勤務校	クラス数	大学進学率	探究活動の実施体制について感じていること
126	①	物理	④ 50～59歳	① 普通科;	② 29～22学級	② 89～80%	文科省とかが何を言って現場の教員・子供のレベルを考えたら探究活動など無茶ぶりがはなはだしい。
127	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科;	① 30学級以上	③ 79～60%	生徒数が多いということは、どんな教育活動においても困難になる。25人程度の少人数学級が求められる。
128	③	生物	④ 50～59歳	① 普通科;	③ 21～15学級	④ 59～40%	未だに、直接的な教科指導・問題演習の方が学力向上の上で、探究活動より必要だという教員が一定数いること
129	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科;	④ 14～7学級	④ 59～40%	生徒の学力とそれに見合った教員の探究活動への指導体制
130	②	化学	④ 50～59歳	④ 工業科;	① 30学級以上	⑥ 19%以下	工業科の授業が主
131	②	化学	④ 50～59歳	① 普通科;	④ 14～7学級	① 90%以上	時間不足が最も大きい
132	①	物理	④ 50～59歳	① 普通科;	③ 21～15学級	① 90%以上	ゼミ形式になるのでやはり教員数が絶対的に不足する。および生徒の実施時間も不足する。
133	①	物理	⑤ 60歳以上	① 普通科;	③ 21～15学級	① 90%以上	一部の教員に負担が偏っている
134	②	化学	⑤ 60歳以上	① 普通科;	② 29～22学級	① 90%以上	基礎的な実験の経験もない生徒に探究活動など不可能である。
135	①	物理	⑤ 60歳以上	① 普通科; ⑤ 商業科;	② 29～22学級	③ 79～60%	普通科・商業科併設のため探究活動を行うための時間割調整など困難を極める
136	①	物理	⑤ 60歳以上	⑥ 農水産業科;	④ 14～7学級	⑥ 19%以下	重要性は理解できるが余裕が無い(施設・設備・教員数・生徒の進路希望)
137	③	生物	⑤ 60歳以上	① 普通科;	② 29～22学級	② 89～80%	教員数が足りていない
138	②	化学	⑤ 60歳以上	⑤ 商業科;	④ 14～7学級	⑥ 19%以下	全ての学校で十分に実施することは難しい。
139	③	生物	⑤ 60歳以上	⑧ その他;	② 29～22学級	① 90%以上	さらなる発展が必要
140	①	物理	⑤ 60歳以上	① 普通科;	④ 14～7学級	⑥ 19%以下	理数としては実施していないが、学校としてクラス単位に良く取り組んでいると思う。
141	①	物理	⑤ 60歳以上	① 普通科;	② 29～22学級	③ 79～60%	文系進学者中心の学校で理数探求の実施は困難である。
142	①	物理	⑤ 60歳以上	① 普通科;	③ 21～15学級	⑥ 19%以下	教員の専門性を向上させ、フィードバックする機会が不足している。
143			⑤ 60歳以上	① 普通科;	③ 21～15学級	③ 79～60%	探求教育を評価できる理論と人材が欠如している。